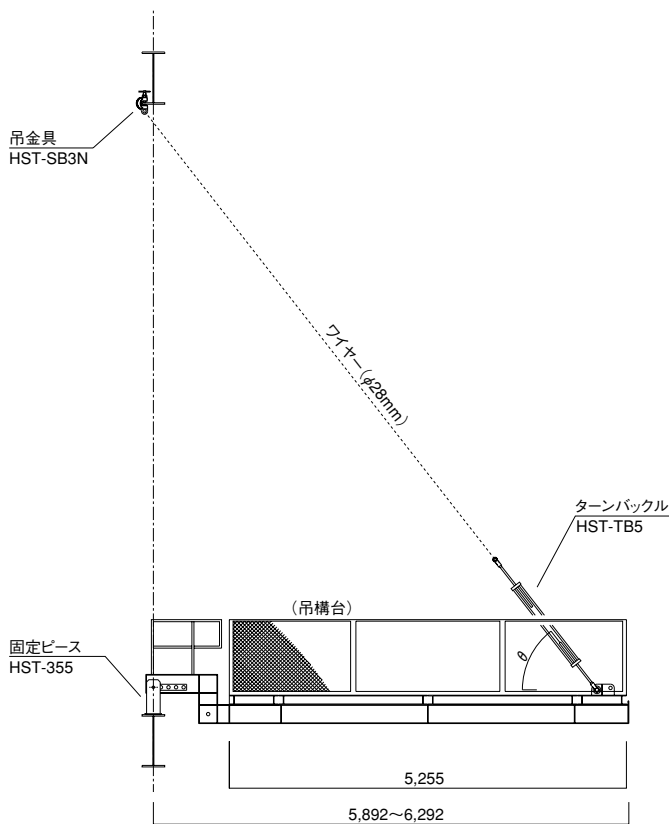


吊構台

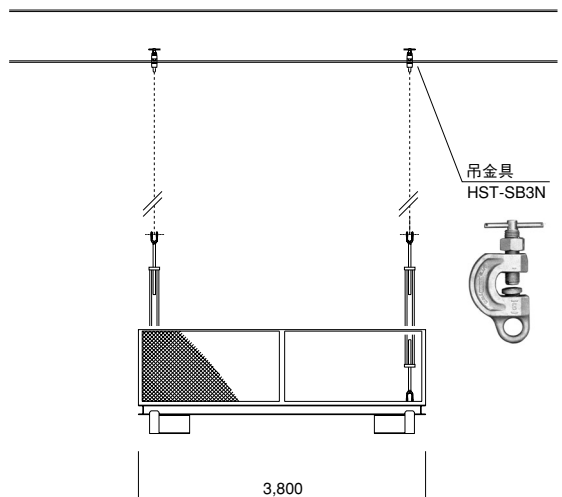
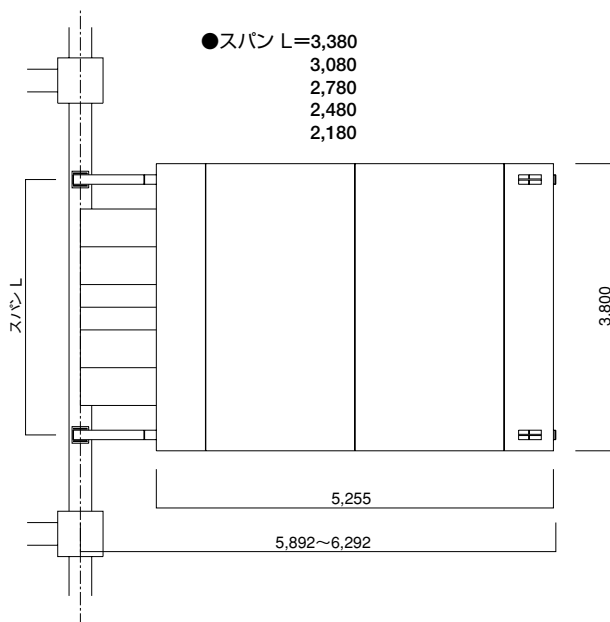
●吊構台 (大型)



吊構台用ビーム



固定ベース
スラブ厚によって設計、製作します。



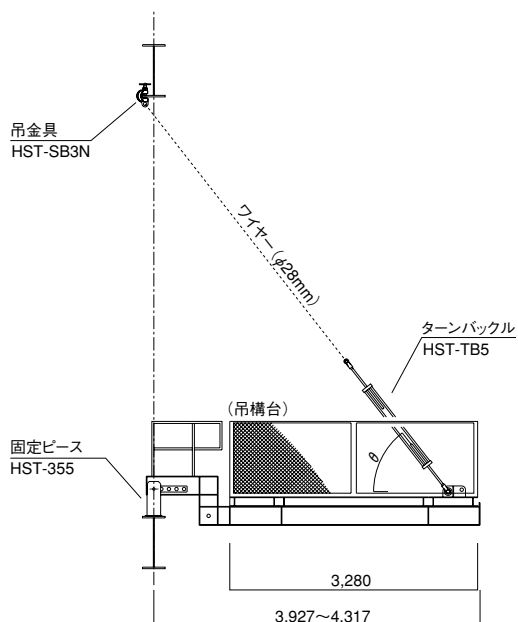
使用上のお願い

- 1) 積載荷重を厳守して下さい。
- 2) 鉄骨本体への影響は事前にチェックして下さい。
- 3) 各部のゆるみ、ワイヤー等、定期的に点検して下さい。
- 4) ワイヤーは『φ28mmロック止めシンプル付』を使用して下さい。
- 5) 当社の認めない部材の使用はしないで下さい。
- 6) 部材の改造、加工はしないで下さい。

●積載荷重：	θ=53°	49.0 kN	●自 重：	2,750kg
	θ=50°	47.5 kN		
	θ=45°	42.1 kN		
	θ=40°	35.8 kN		
	θ=35°	28.9 kN		

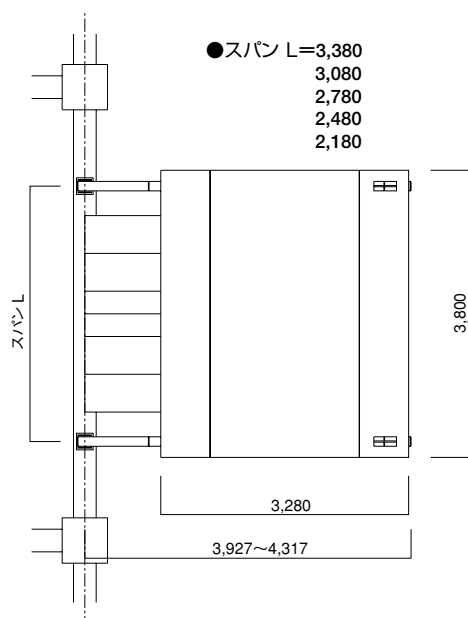
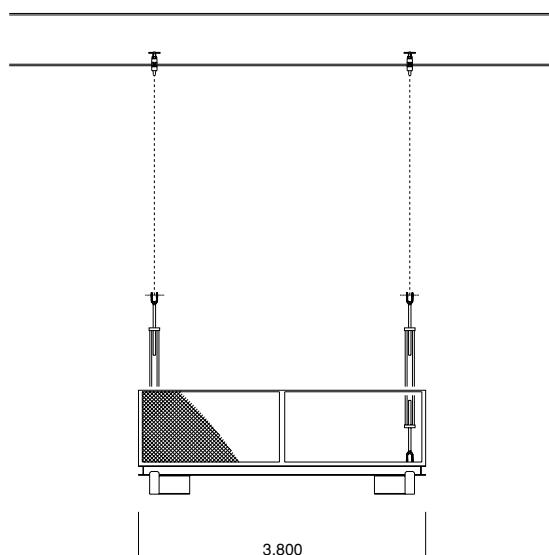
*積載条件は等分布荷重です。

●吊構台(小型)



- 積載荷重: $\theta=53^\circ$ 49.0 kN
- $\theta=50^\circ$ 49.0 kN
- $\theta=45^\circ$ 47.0 kN
- $\theta=40^\circ$ 41.2 kN
- $\theta=35^\circ$ 34.3 kN
- 自 重: 2,030kg

*積載条件は等分布荷重です。



■吊構台構成部材

品名	品番	大型	小型
吊構台用ビーム(右)	HST-5R	1	—
吊構台用ビーム(左)	HST-5L	1	—
吊構台用ビーム(右)	HST-3R	—	1
吊構台用ビーム(左)	HST-3L	—	1
吊構台用ステージ	HST-1938	2	1
吊構台用フロントステージ	HST-0638F	1	1
吊構台用リアステージ	HST-0638R	1	1
吊構台用ターンバックル	HST-TB5	2	2
吊構台用吊金具	HST-SB3N	2	2
吊構台用シャックル	HST-SB24	2	2
	HST-295S	2	2
吊構台用渡し板(スロープ)	HST-505S	2	2
	HST-505SCR	1	1
	HST-505SCL	1	1
吊構台用手摺柱	HST-40P	7	5
	HST-40PC	4	4
吊構台用手摺	HST-05H	4	4
	HST-16H	8	8
	HST-18H	8	4
吊構台用養生枠	HST-05N	2	2
	HST-15N	—	2
	HST-16N	4	2
	HST-18N	4	2
吊構台用手摺柱	HST-09H	2	2
吊構台用塞ぎ板	HST-35C	4	4
	HST-35CH	2	2

■消耗品

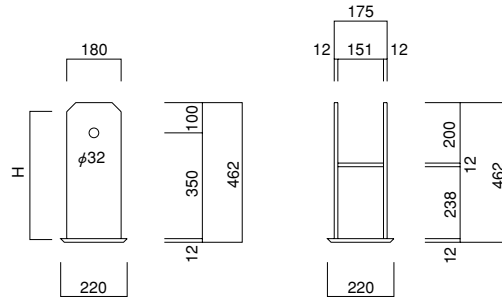
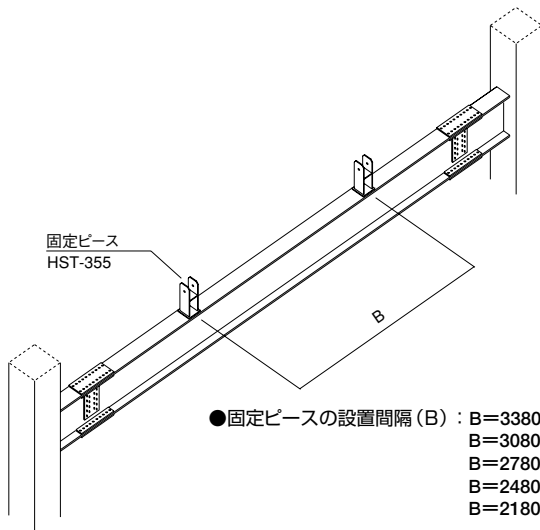
品名	品番	大型	小型	
固定ピース	HST-355	2	2	
ワイヤー(φ28 mm)	HST-W	2	2	
ボルト	M30×215	HST-B1	2	2
	W5/8×165	HST-B2	12	8
	W5/8×50	HST-B3	16	16
	W1/2×45	HST-B4	8	8
	M10×75	HST-B5	30	26
	M10×40	HST-B6	48	48

*固定ピースの数量は転回回数によってかわります。

◆ 設置手順

① 固定ピース取付け

鉄骨工場あるいは現場にて、吊構台を設置する鉄骨梁へ固定ピースを溶接する。



固定ピース (スラブ厚 150mm用)

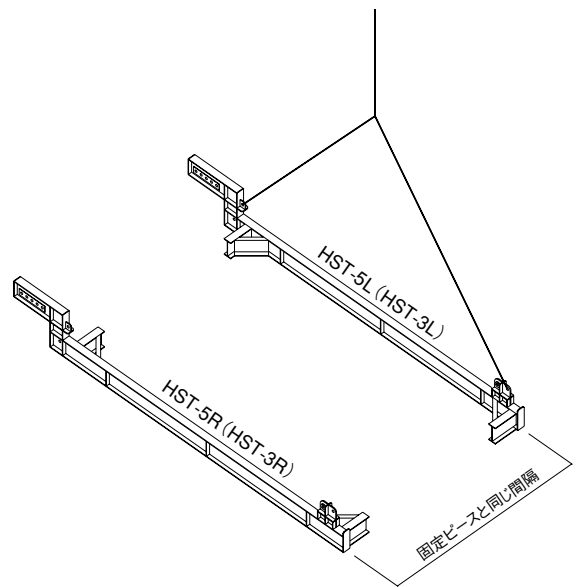
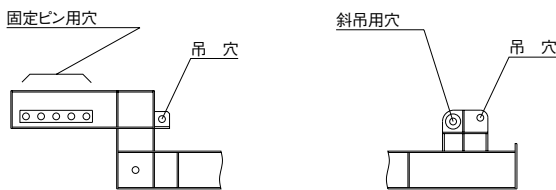
※ 梁天端からステージ天端までの高さは
固定ピースの穴の高さをHとした時、H-105
(H=362の場合、梁天端からステージ天端までH257です)

② 吊構台組立

吊構台は地上で組立し、使用する場所に吊上げます。

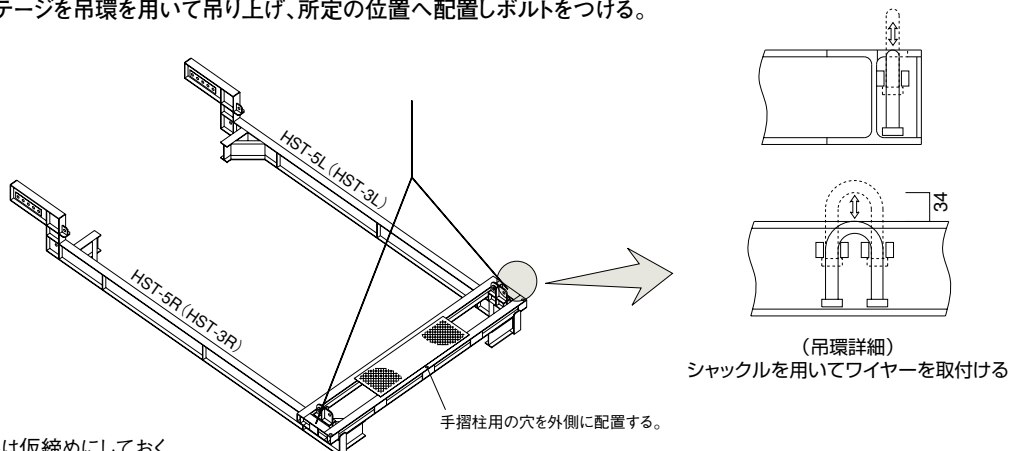
②-1) 吊構台用ビームの配置

(右)、(左)の吊構台用ビームを、固定ピースと同じ間隔で並べる。
吊構台用ビームの吊り上げは吊穴をお願いします。



②-2) リアステージの組立

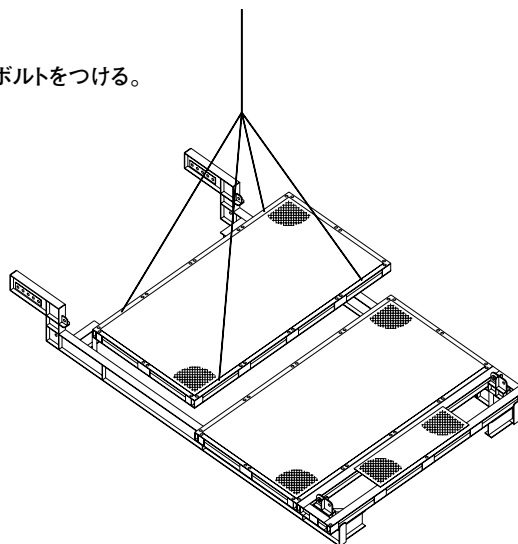
リアステージを吊環を用いて吊り上げ、所定の位置へ配置しボルトをつける。



*ボルトは仮締めにしておく。

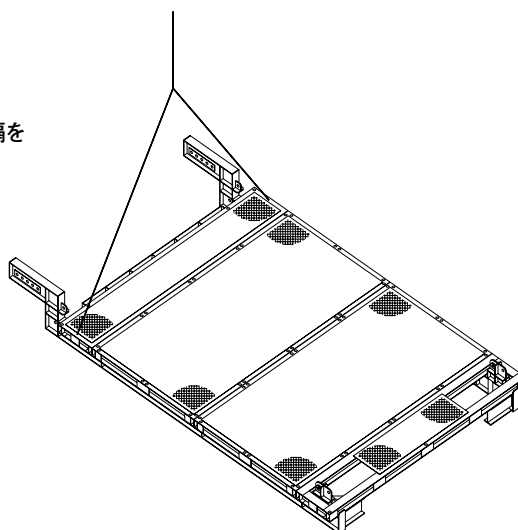
②-3) ステージの組立

ステージを吊環を用いて吊り上げ、所定の位置へ配置しボルトをつける。
大型は2枚、小型は1枚のステージを使用する。



②-4) フロントステージの組立

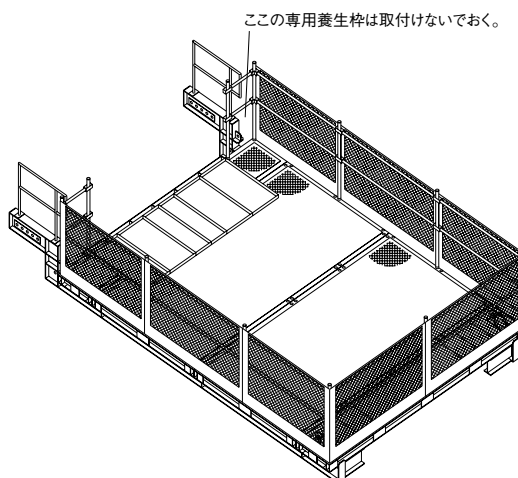
フロントステージを吊環を用いて吊り上げ、所定の位置へ配置しボルトをつける。
全てのボルトが入っている事を確認し、再度ビームの間隔をチェックしボルトを本締めする。
(リアステージの塞ぎ板の確認もする)



②-5) 手摺等の組立

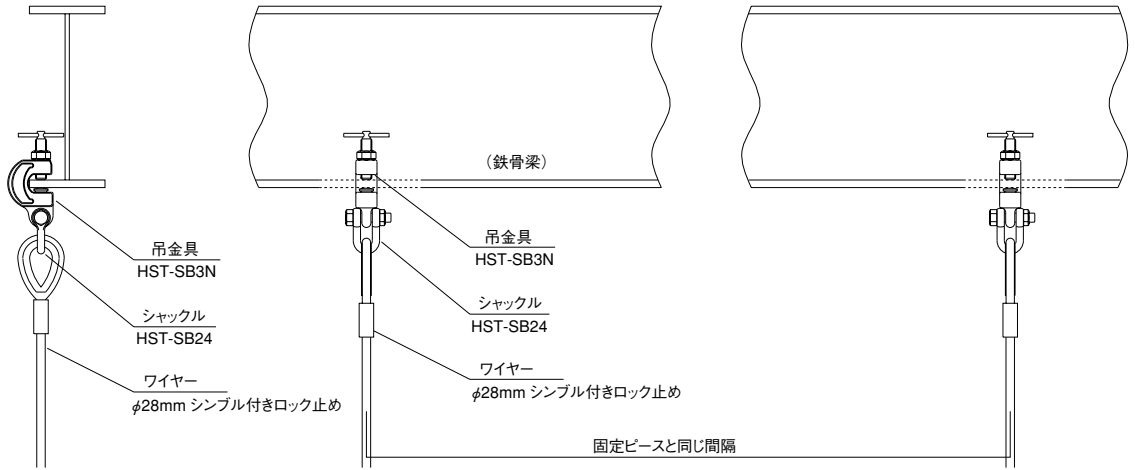
次の物を組立てる

- 手摺柱 (ロックピン付き)
- 手 摺 (クサビ式)
- 専用養生枠 ※建物側の専用養生枠は取付けない。
- 手摺枠
- 渡し板
- 塞ぎ板

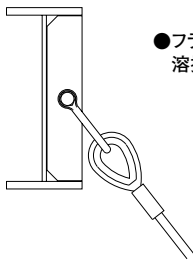


②-6) 吊金具、吊ワイヤーの取付け

上の階の鉄骨梁に、固定ピースと同じ間隔で吊金具を取付ける。
 固定ピースにシャックルを使いワイヤーを取付ける。
 固定ピースを取付ける鉄骨梁はワイヤーの角度を考慮し決める。

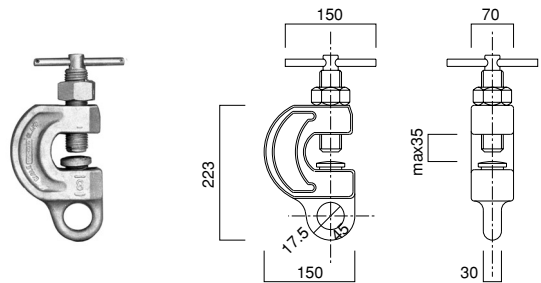


(吊金具の使えない場合)



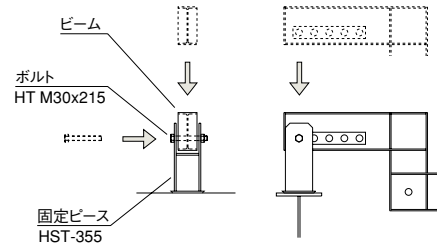
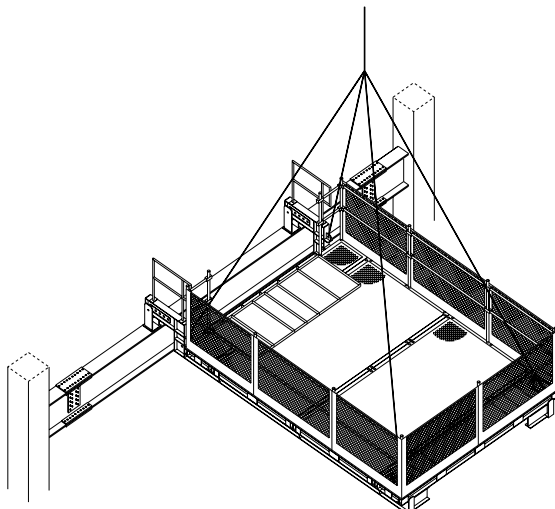
●フランジ間に穴あけしたプレートを溶接し長シャックルを使用する。

吊金具 HST-SB3N...7.8kg



②-7) 固定ピースへのセット

地組みした吊構台を、吊り上げ(4点吊)固定ピースに取付ける。



●ボルトには必ず割りピンをつけナットの脱落を防止してください。

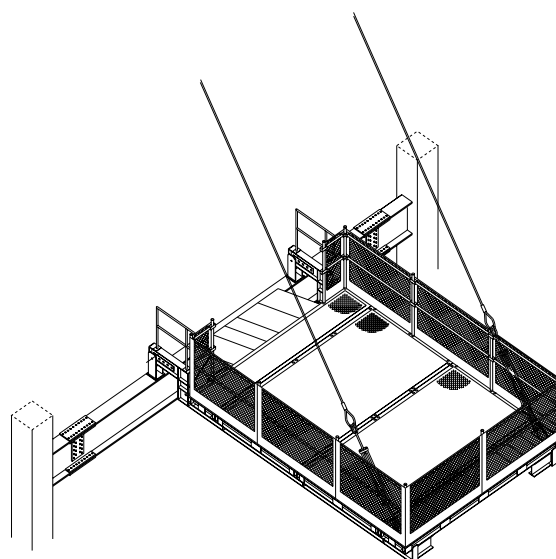
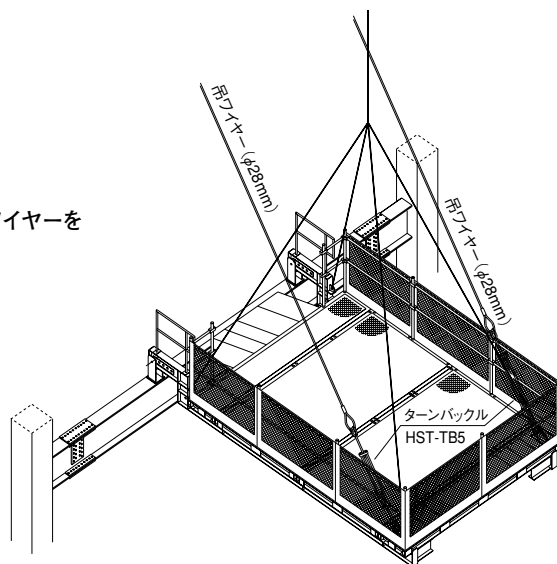
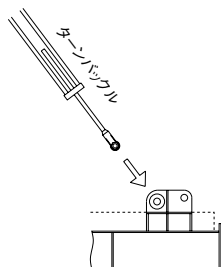
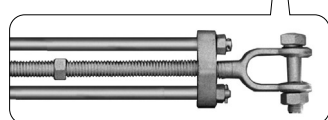
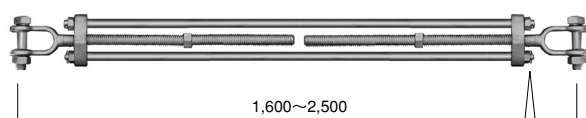
②-8) ターンバックル取付け、吊ワイヤーの緊張

吊構台は吊った状態で作業をおこなう。

②-8) で取付けたワイヤーとターンバックルをつなぎ、
吊構台が水平になるようにターンバックルで調整する。

ターンバックルの調整が終わったら、吊構台を吊っている玉掛けワイヤーを
徐々にゆるめ、吊ワイヤーに荷重をうつす。

ターンバックル HST-TB5…26.5kg



②-9) 専用養生枠の取付け

玉掛けのために残した養生枠を取付け、完了。

